
剣　～ツルギ～

聖風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

剣　　ツルギ

【Nコード】

N5677D

【作者名】

聖風

【あらすじ】

武器は悪くない。それを伝えるために書きました。一度、読んでみてください。

俺は剣^{シルギ}。

純粹に人を殺す為に作られた『武器』。

でも、その武器にも心がある。

俺はある一人の剣士の為に作られた。

その剣士の名は「シルフ」と言った。

それから、俺はそいつに付き従った。

無論、俺が反抗なんて出来なかったから。

『人間』は俺に心があるなんて知らない。

そして、シルフは俺を携え『戦場』という場所へ赴いた。

『戦場』は俺等の仕事場。

そして、自分の主人が力量を試す場。

シルフはそこで、鬼神の如く『人間』を俺で斬っていった。

10人、100人、1000人…

気が付けば、『戦場』で生きているのは俺とシルフだけだった。

他の武器は折れたりしていた。

そして俺は、大量の血を浴びていた。

それは、シルフもだった。

シルフは俺にささやいた。

「ありがとう。お前のおかげで俺は生きている。」

確かに、俺は人を斬ったが、そこに俺の意志は無い。

シルフが俺を振るい、人を斬った。

俺は、人など斬りたくなかったのに。

それから、シルフは人を斬り続けた。

ひたすら強さを求めて。

その度に俺は血を浴び、欠けていった。

そして、俺はそれにガマンできなくなった。

俺は、自分がシルフを殺したいと願うようになった。

そして、それは叶った。

ある日、シルフはいつもの様に俺を携え、戦場へと向かった。

人は出陣するシルフをみるなり「英雄」と呼んだ。

何が英雄だ。コイツは人殺しだ。

俺はそう思った。

シルフは戦場に着くと、人を斬っていった。

10人、100人、1000人…

そこまで斬って、立っている『人間』は二人になった。

シルフはその人間に斬りかかった。血を大量に浴びた俺で。

しかし、その人間は俺をかわした。

シルフはバランスを崩し、俺の刃先に向かって倒れてきた。

シルフの心臓に俺が突き刺さった。

シルフは死んだ。

その時、俺はついに折れた。

しかし、俺は満足だった。

人殺しのシルフを自分が殺したからだ。

でも、何故か悲しくなった。

そうだ。

俺は俺の意志で人を殺したことは無かった。

でも、最後に自分の意志で人を殺した。

俺はシルフと同じ『殺人者』だ。

俺はもう生きている資格など無い。

俺は永遠の眠りについた。

（後書き）

剣や銃など、現代では武器が憎まれています。
しかし、武器は悪くありません。
それを作り出し、使う人間が悪いのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5677d/>

剣　～ツルギ～

2010年10月11日01時58分発行